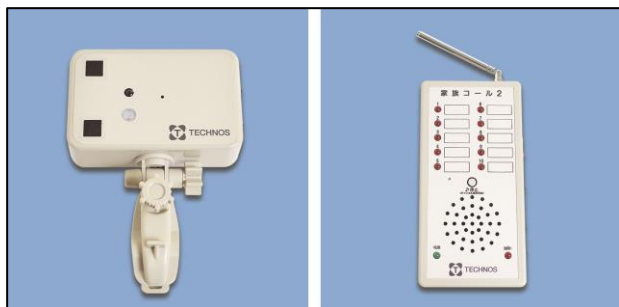


在宅ケア Now では、「在宅ケア現場の今」をレポートします。 今、在宅ケアが変わり始めています！

サービス付き高齢者向け住宅で活用されている、赤外線タイプの徘徊感知機器『家族コール 2・Cタイプ』の運用事例をご紹介します！

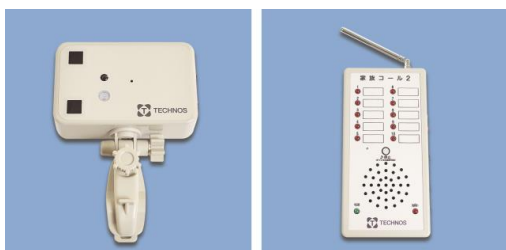


大阪府・サ高住 S 様の場合

【離床センサー運用状況について】

生活リズムが安定しない方、ナースコールで呼び出しをしていただけない方、また認知症が進み、ナースコール自体を認識できていない方など、転倒に関連して適用事例は様々ありますが、要介護度 3 の入居者に離床センサーを使用しています。

【家族コール 2・C タイプ構成部品と設置イメージ】



【ハイパー・赤外線センサーK】 【モロディチャイム 10】



【赤外線で離床・徘徊行動を検知します。様々な場所に設置できます。】

【家族コール 2・C タイプ使用例①】

<ベッドフレームに設置> 対象者が端座位になった時の足元を検知します。



【写真左】

クランプ・マグタッチ（オプション）の使用で入居者からは見えない位置に設置できます。

【写真右】

ベッドから足を下した状態。この段階で報知します。

【家族コール 2・C タイプ使用例②】

<出入口に設置> 対象者の部屋からの出入りを検知します。



【写真左／中央】

クランプの使用で入居者には見えにくい位置に設置できます。



【写真右】

センサーの前を通過すると報知します。

その場で音が鳴ることはありませんので入居者の行動を妨げることはありません。

【家族コール 2・C タイプ使用例③】

<トイレの手すりに設置> 対象者がトイレに入る時や立ち上がりの動作を検知する運用が可能です。



【写真左】

便座に近づく動作や、立ち上がる動作を検知するように角度を調整します。

【写真右】

クランプの使用で手すりの上部にも設置できます。



家族コール 2・C タイプは

ベッド周りや部屋の出入口など様々な場所に設置できる赤外線センサーで対象者がセンサーの照射エリアを通過すると報知します。

時間帯や対象者の状態に応じて設置場所を簡単に変更できる汎用性の高いセンサーです。